

○ 史跡^{ちづおうらい}智頭往来 志戸坂峠^{しとさかとうげごえ}越

- (1) 所在地 西粟倉村大字坂根^{さかね}503 番地 外 23 筆（追加指定地）
- (2) 指定年月日 平成 20 年 5 月 21 日 文部科学省告示第 65 号（鳥取県分）
- (3) 指定地面積 追加指定地面積 88,928.91 m²
既指定地面積 7,745.48 m²（鳥取県分）
合 計 96,674.39 m²
- (4) 所有関係 村有地、民有地
- (5) 概要

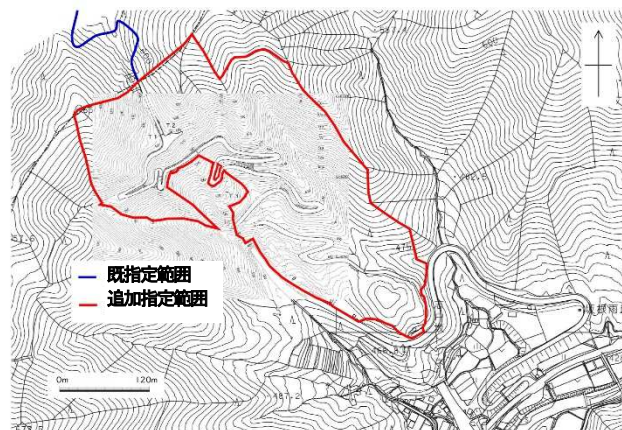
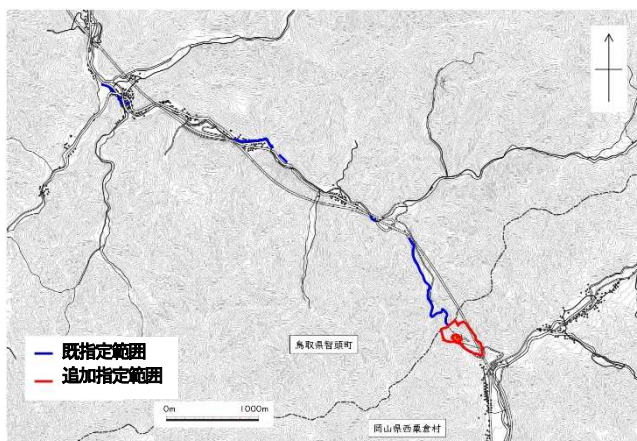
史跡智頭往来志戸坂峠越は、鳥取城下と姫路城下を結び、因幡^{いなば}地方から大阪・京都へ至る主要街道である。古代以来の主要街道で、平安時代の承徳^{じょうとく}3 年に因幡国守 平 時範^{たいらのときのり}が任国に赴任する際に、志戸坂峠で行われた「境迎え」の儀式が日記『時範記^{じはんき}』に記録されていることでも著名である。その後、近世には鳥取藩の参勤交代道となり、宿駅が置かれ、整備・維持されていた。平成 10～18 年度にかけて智頭町^{ちづちょう}教育委員会により「歴史の道整備事業」が実施され、遺存状態の良好な中原・樽見^{なかはら たるみ}・駒^{こま}帰^{がえり}地区の約 2.5km の古道が平成 20 年 5 月 21 日に史跡に指定され、現在に至る。

(6) 追加指定

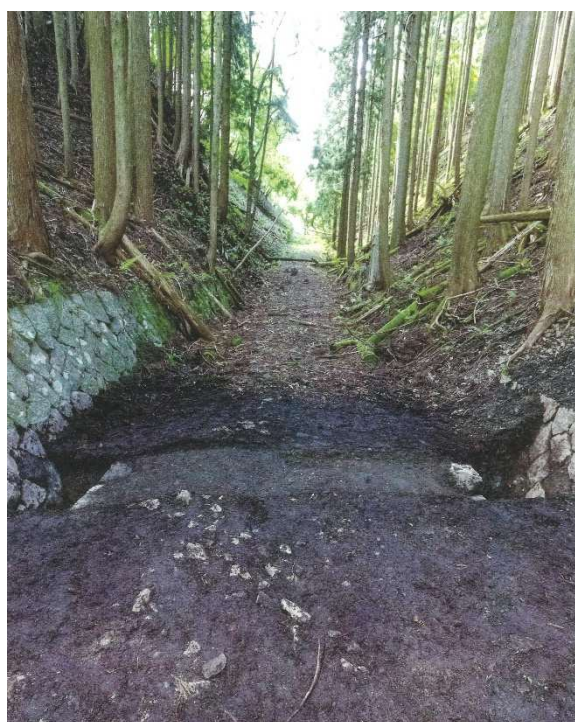
追加指定地は、既指定地南東の隣接部・岡山県英田郡^{あいだぐん}西粟倉村内にあたる部分である。西粟倉村教育委員会が、令和 3～5 年に確認調査等を実施した結果、西粟倉村側の現道は、明治 18～20 年に国道として改修工事を行ったものであることが明らかとなった。明治政府が国家戦略として打ち出した国道整備が、地方まで早期に貫徹されていたことを具体的に示す遺跡として重要であるとともに、この現道の間に部分的に残っている道路については、その重複関係と路面の構造から江戸時代以前のもものと推測され、江戸時代から現代に至る智頭往来志戸坂峠越の重層的な改修・利用の歴史を読み取ることができ、交通史を考える上でも大変重要であることから、対象地域を追加指定し、既指定地と一体的に保護・活用を図る。



智頭往来 志戸坂峠越位置図



智頭往来 志戸坂峠越範囲図（赤：追加指定範囲、青：既指定範囲）



追加指定地写真（南東から）



追加指定地所在開鑿碑写真（明治20年・南西から）